

謎の女優ワダの妖しい魅力に、誰もが酔いしれる!

ポランスキー様

オープニングから殺されました

物語と現実

男と女を行ったり来たりしながらの演出に笑わせていただき忘れていた感情を遊ばせていただきました

感じるエンディングも最高です。

—夏木 マリ

拍手!!!

ワダとトマの世界への扉を開けたらもう逃げられない。

衝撃のワダのラストシーン、最高!!!

愛おしきワダにまた会いたくてたまらない。

—中越 典子 (女優)

巨匠ロマン・ポランスキー! 80才にしてとんでもない映画を創り上げた! エマニュエル・セニエ、もう笑ってしまうくらいにエロチックで凄い! そして演出家を演じるマチュー・アマルリック! 後半にくればくほど監督自身が乗り移っているではないか!! たまらない! 導入部から引き込まれ、エンドロールに登場する絵画まで目が離せない!

まさにポランスキー監督の生活を人生をさらけ出した映画!!

—竹中 直人 (俳優・映画監督)

出演者ほぼ二人の会話劇が、こんなに小粋でスリリングでおもしろいとは!

ワダに翻弄されるマチューが最高!

—弓山 奈穂実 ([ELLE JAPON]編集部)

ロマン・ポランスキーがまたしてもやってくれました。ぐいぐいと引き込まれるこの妻は何なのか。

いまだかつてないスリリングなサスペンス

に誰ものがめりこんでしまうであろう。

—假屋崎 省吾 (華道家)

二人だけで展開されるサドマゾの縮図は、

女性に男性が理想を求めた挙句見事理想郷へともてなされた結果、**痛快なラスト**でした。

—アヴちゃん (女王蜂) (アーティスト)

こんなにも妖しく官能的な映画を創った

80才のポランスキー監督に脱帽!!

—岩下 志麻 (女優)

劇場は、現実から隔絶された異空間。

男は、女に誘われるまま、底なし沼のような物語にのめり込む。

その結末に、同じ俳優として、うすら寒さを感じた。

—石丸 幹二 (俳優・歌手)

アナログの3D!!

現実と劇中をキッチリ分けながら さまようワダ。

権力の移行に必死に、もがきながら追い掛けるトマ。

私は特等席で二人の戯曲に酔いしれた。

—萬田 久子 (女優)

俳優の魅力と圧倒的演技力、

それを演出して捕ったポランスキー監督に嫉妬しました。

この映画の定義で言えば、私はSだ。

—滝藤 賢一 (俳優)

評価は無用!

すべてがセリフ、すべてが虚構、すべてが真実。

ポランスキーが自分を暴いた。

—志茂田 景樹 (よい子に読み聞かせ隊隊長・作家)

「ファウスト」や「ティツィアーノ」などヨーロッパの甘美な毒のある宝石の名前が随所に散りばめられているわ。

極上の素材と極上バターとオリーブオイル、そして秘密のハーブを効かしたポランスキーシェフによる

Le théâtre de la cuisine psychologique
テアトル・デ・ラ・キュージヌ・プシコロジーク
(心理的料理の劇場)を召し上がれ!

—ヴィヴィアン佐藤 (美術家/ドラッグクイーン)



巧みな言葉と素晴らしい俳優が揃えば、こんなにも官能的な時間が造り出される。

ワダは一体何者なのか、

あるいは“女”そのものか。

—豊田 エリー (タレント/女優)

ポランスキーの奇妙なドラマツルギーにからめとられ、

2人の俳優の情熱的な演技にしびれた!

—余 貴美子 (女優)

密室の中での、濃密な二人のやりとり。

刻々と変化する、二人の関係、役どころ。

責める喜び、責められる快楽が交差する、その高揚感。

一役者として、ワクワクしながら覗き見の感覚でした。

—三上 博史 (俳優/「毛皮のヴィーナス」予告編ナレーター)

高度な関節技を見ている気分だ。

派手な攻撃ではないが、技がきまると降参するほかない。

ポランスキーの特異体質もよく出ている。

—芝山 幹郎 (評論家)

極上の演出と演技に痺れた。

観客がマゾになれる映画。

教え1=復讐こそエロティックである。

教え2=女神をなめたらいけません。

—松岡 正剛 (編集工学研究所所長)

ここまでグイグイ来られたら、抵抗できない〜。

マジ困っちゃう。

—真島 茂樹 (ダンサー・振付師)



一つ一つの表情が、仕草が、魅力的で

二人の世界に引き込まれていきました。

—岸本 セシル (モデル)

思春期に「ローズマリーの赤ちゃん」、舞台から映画の世界に足を踏み入れた頃の「テナント」そしてこの「毛皮のヴィーナス」。

これまでのロマンの世界を凝縮したかのような今作にまさに倒錯した官能を覚えた。

虚と実を自由に往来できる肉体とマチエールを手にする創造主に我らは仕え、観客役のオーディションを受けに劇場に向う。

—佐野 史郎 (俳優)

観客、そして男も女も彼女の魅力に引き込まれていく。

理想の女、また女優のワダ。

私もワダのような女になれるだろうか。

—秋元 才加 (女優)

鬼才ロマン・ポランスキーがまたやった!

小気味よい哲学的な台詞がボンボン飛び出し実に楽しく、

思わず最後まで引き込まれてしまうほど、驚くべき作品。

—デヴィ スカルノ (インドネシア元大統領夫人)

さすがポランスキー

でも分かる人は分かる!! サドマゾ知らない人は?

私の経験でもラストシーンは同じ経験があり笑ってしまいました(笑)

—カルーセル 麻紀 (タレント)

シンプルかつ上品で同じセットなのに終わりにつれ全く違うviewになっていくのは流石 ポランスキー監督!

ザ・フレンチな一作

—IVAN (モデル・タレント)

諧謔の女神にひれ伏せ、男ども!

—マリアンヌ 東雲 (キノコホテル)